

令和6年度
学校自己評価報告書

令和7年3月

学校法人阿佐ヶ谷学園
阿佐ヶ谷美術専門学校

1. 学校の教育目標

本校の目的は、アートの教育を以って理念的真、善、美の世界を現実化することにある。そのプロセス、成果によって、社会及び世界に貢献しようとする。その為には精神の自由が必要であり、それは総合性によって得られ、また人間は自然の一員として、そこから学び、それらを通し成業を果たし、成就へと向かう。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことかゝ必要な目標や計画

学科ごとの良質なカリキュラムの設定

(学校独自の理念を基軸に)

就職や仕事に結びつく効果的な授業

(学生と社会、それぞれのニーズのバランス)

学生の学びを応援できる充実した施設環境の整備

(リモート授業を活かせる環境の整備)

学生生活における体調管理および保健指導

(新型コロナウイルス感染症等に対応する管理、保健指導)

社会環境に合わせた柔軟な対応

(社会の変化してゆく枠組みに対応)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

- 課題：
 - 社会情勢を考慮しつつ、アサビをどのように変化させていくかが課題である。
 - 学習能力やコミュニケーション能力、デザイン適性などの能力が劣る学生や、健康に問題を抱えた学生への指導方法や対応方法に課題があり、個別対応に要する負担が増加している。
 - 学生の持つ志向性や問題点と、業界のニーズとの乖離に対する働きかけが必要である。
 - 時代の流れに合った教育が必要である。
 - カリキュラムは方針に沿っているものの、現在の学生世代の質の変化に対応できているか検討が必要である。
 - 学校として目指す教育像と、各コースで設定している教育像に乖離がないか不安がある。保護者が学校に求める「社会で生き抜く力」の育成に対し、専門職への就職率が低いことが問題である。
- 今後の改善方策：
 - 一つ一つの問題をないがしろにせず、丁寧に対応し、処理していくことが必要である。
 - 優良な学生の募集、入学選考基準の明確化、学習達成目標の周知、学生・保護者との事前認識の確認を提案する。

- 学生のモチベーション構築のため、段階的かつ複数の目標値を設定して達成していく工夫を明確化することが必要である。
- 企業のニーズを授業に取り入れていくことが重要である。
- 説明の分かりやすさと基礎技術の反復が必要である。
- 企業との積極的な交流が必要である。具体的には企業ガイダンスの増加、出版社の編集者を招くこと、該当分野で活躍するプロとの接触機会の増加を挙げる。また、企業見学会の実施や、各コースでの情報共有も提案する。

(2). 学校運営

- 課題：
 - 事務系の業務の効率化について、更なる改善の余地がある。
 - 情報システムについては、学生情報が一元化されておらず、必要な時に情報が得られないことが多い点が課題である。
- 今後の改善方策：
 - 新しい人、若いスタッフに活躍の場を与えることを提案する。
 - 学生情報については、各部署・コースごとの管理でも問題ないが、必要な情報は随時学生データベースを更新すべきである。

(3). 教育課程

- 課題：
 - 学生がどの方向で能力を磨いていくかを決めることが課題である。
 - 教職員が学校の指導に注力しているため、個人の人脈や卒業生からの講師誘致だけでは新しい分野の講師獲得が難しい状況である。
 - 教員への研修が必要である。
 - 職員の能力開発については、個人の資質に依存している現状がある。
- 今後の改善方策：
 - 方向性が決まれば自ずと能力を磨く方法も明確になる。
 - コンサルタントや求人サイトなども活用し、先駆的な分野にも対応できる体制を学校に整えることが必要である。
 - 企業で活躍している実務経験のある教員が必要である。
 - 一度、職員や教員に対して、業務や能力を向上するために何を学びたいかヒアリングすべきという意見がある。
 - 卒業生や現職の教職員が業界と接点を持つことで指導者確保が可能になるため、教職員には事前に社会経験を積むことも有効である。また、教職員が参加できるセミナーや研修会への斡旋も必要である。

(4). 学修成果

- 課題：
 - 卒業後の進路把握が難しい。
 - 学習成果を見るため、他校学生との交流が必要である。
 - 学生の就職に対する意識の変化(就職意識の低下)へのアプローチを検討しなければならない。
 - 社会との関係を構築する授業の仕組みが必要であるものの、特定のコース長個人の意思や能力に依存しており、学校全体の取り組みとなっていない点が課題である。
- 今後の改善方策：
 - キャリアセンター、同窓会組織の活用、教員との情報共有を提案する。
 - 個々のレベルアップが必要である。
 - 学生個別の面談を通じた聞き取りから、個別の対処を考察し、アドバイスを提供することが重要である。
 - 各コースで社会と関われる授業の策定を行うなど、学校の方針として目標にして対応することが必要である。

- 各コースで取りまとめている就職活動情報をキャリアセンターと連携させ、キャリアセンターは学生の就職活動情報を教育会議で報告し、年度末や締めめのタイミングで総括や分析結果を全体に共有することを提案する。

(5). 学生支援

- 課題：
 - 家庭に問題を抱えている学生が増加している。
 - 就職活動を経験していない教員が就職活動のケアをすることは難しく、社会経験のある教職員を増やすべきである。また、進路・就職に関するケアにおいて、企業と繋がれる機会を学校として増やす必要がある。
- 今後の改善方策：
 - カウンセリングや保護者との面談を強化することを提案する。
 - 企業と繋がれる機会を学校として増やす必要がある。
- 特記事項：
 - 埼玉県高等学校の美術教員と連携し、毎年アサビ講師を派遣して出張授業を実施している。高校生へのキャリア教育の一環として継続していきたい意向がある。
 - 過去にはプロダクト、企業マスコットキャラクター、ロゴデザインの出張授業を実施した。
 - 入学者確保だけでなく、美術・デザイン業界の底上げのためにも、社会的使命として継続していきたい。

(6). 教育環境

- 課題：
 - 防災の準備が不十分である。
 - 設備の老朽化(建物・機材の更新計画)が課題である。
 - 教室不足や老朽化も課題である。
 - 一部工房の役割が不明確で、所属コース以外の学生が活用する雰囲気がない点が課題である。
 - 一部コースの設備が整っているとは言い切れない状況がある。
- 今後の改善方策：
 - 災害備蓄品の充実を図ることを提案する。
 - 写真工房と統合して、写真・映像工房として機材の貸し出し、スタジオの使用の管理をおこなうことを提案する。
- 特記事項：
 - 海外研修に関しては、馬場先生を中心にシステムが整っている。

(7). 学生の受入れ募集

- 課題：
 - 時代に合わせて、Web出願を実施する必要がある。
- 今後の改善方策：
 - Web出願データと連携する、学生管理、成績管理システムの導入を図ることを提案する。

(8). 財務

- 課題：
- 今後の改善方策：
 - 必要な財源が足りないのであれば、学費を上げることも検討してほしいという意見がある。

(9). 法令等の遵守

- 課題：

- 今後の改善方策：

(10). 社会貢献・地域貢献

- 課題：
 - 本校の存在意義を内外に示すためにも、公開講座は学校主導で積極的に実施すべきである。
- 今後の改善方策：
 - 公開講座実施のため、担当者、講座発案者の確保を提案する。
- 特記事項：
 - 都立高校の美術科教員研修会やこども美術教室の実施、リカレント教育などを実施している。
 - イメージクリエイションコースが杉並区と連携している事例がある。
 - 2025年度(令和7年度)には埼玉県的美術科教員研修会も実施予定である。

(11). 国際交流

- 課題：
 - 留学生が増えている中で、各コースの規定人数のようなものが必要である。
- 今後の改善方策：

評価点一覧

カテゴリー	評価項目	評価基準	評価
(1). 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	学校における職業教育の特色は何か	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3.5
	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
(2). 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3.5
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

(3). 教育課程	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	授業評価の実施・評価体制はあるか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	2.5
	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
(4). 学修成果	就職率の向上が図られているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	退学率の低減が図られているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
(5). 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3.5
	学生相談に関する体制は整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	2.5
	学生の生活環境への支援は行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	保護者と適切に連携しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

	卒業生への支援体制はあるか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
(6). 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	防災に対する体制は整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
(7). 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	学納金は妥当なものとなっているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4

(8). 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
	財務について会計監査が適正に行われているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3.5
	財務情報公開の体制整備はできているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3
(9). 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3.5
	自己評価結果を公開しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
(10). 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	2
	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	2
(11). 国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	4
	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1	3

令和6年度
学校関係者評価報告書

令和7年3月

学校法人阿佐ヶ谷学園
阿佐ヶ谷美術専門学校

令和6年度 関係者評価報告書

開催日時: 2025年 3月28日 14:00

評価対象期間: 2024年度(令和6年度自己評価に基づく)

出席者: 理事長 三輪孝幸

学校長 甲斐光省

同窓会代表 小山弘

卒業生代表 勝山昌幸

評価項目と課題・改善方策

1. 教育理念・目標

- 課題と現状:
 - 業界のニーズなどを各教員が個別に情報収集しているものの、学校全体での共有が不足している。
 - 資料を理解するのが難しい学生が増え、保護者が学校に求めているのは「就職率の向上」という社会的な切り口である。
 - カリキュラム方針が現在の学生世代の質の変化に対応できていない。
 - AIの出現により、仕事のワークフローが激変することへの対応が求められている。
 - 学生の就職活動開始時期が遅く、モチベーションが低い傾向が見られる。
 - 専門職への就職率が低く、一般職への就職が多いという課題がある。
 - 学生の自己肯定感や倫理観の重要性が高まっている。
- 今後の改善方策:
 - 業界関係者(就職担当者を含む)との交流を深める必要がある。
 - 学生のモチベーション構築に向け、段階的かつ多角的なアプローチを行う。
 - 企業との積極的な交流(企業ガイダンス、フェア、出版社編集者招聘など)を授業に取り入れる。
 - 「図面のわかりやすさ」と「美的基礎技術の反復」を授業内容に含める。
 - 情報交換会は引き続き要請を中心に実施し、同窓会との協力も視野に入れる必要がある。
 - 教職員間のコミュニケーションを活発化させるため、グループウェア導入など横方向の繋がりを強化する仕組みを検討する。
 - カリキュラムが現状の世の中の動きや業界のニーズとリンクしているか確認し、対応を進める。
 - AIなどの先端技術への対応を進めるとともに、デッサンやデザインの基本的な考え方といった基礎教育の重要性を再認識する。

2. 学校運営

- 課題と現状:
 - 事務系の業務において、さらなる効率化の余地がある。
 - 若手スタッフの仕事量が増加しているが、育成が追いついていない側面がある。
 - 学生本人やその家族の情報が複雑化しており、個人情報管理が課題となっている。
- 今後の改善方策:
 - 各部署・コースごとの情報管理を徹底し、必要な情報を随時更新・共有する。
 - 若手スタッフへの業務の引き継ぎや教育を積極的に行い、年長者が若手を育成する流れを確立する。
 - 古い指導方法の見直しや、教えることの難しさを踏まえた研修の導入を検討する。
 - 抜本的な情報管理システムの見直しも視野に入れる。
 - Web出願の導入を早急に進める。
 - 校舎の老朽化対策やバリアフリー化は中長期的な課題として検討を進める。

3. 教育活動

- 課題と現状：
 - 職員の能力開発が個人の裁量に任せがちで、日々の業務に追われ手一杯となっている。
 - 教職員は個人の人脈を活用して卒業生を指導しているが、新しい分野の知識習得が難しいと感じている。
 - 一部の教員には研修が必要とされている。
 - カリキュラムと社会や業界のニーズとの乖離が指摘されることがある。
- 今後の改善方策：
 - 職員・教員に対し、業務や能力向上に関する学びたい内容をヒアリングし、能力向上の具体的な方法を明確にする。
 - コンサルタントや求人サイトなども活用し、先駆的な分野の人材を採用できる体制を抜本的に見直す。
 - 社会経験や実務経験のある教員を確保する。
 - 同窓会や卒業生との連携を強化し、業界の最新情報や現場のニーズをカリキュラムに反映させる仕組みを構築する。
 - 先端技術(AIなど)の活用教育と同時に、基礎的なデザイン思考やデッサン能力など、普遍的な基礎技術の重要性を再認識し、教育に組み込む。
 - 外部からの評価を積極的に取り入れ、教育活動の改善に繋げる。

4. 学習成果・就職率

- 課題と現状：
 - 学生の就職に対する意識が変化しており、就職活動開始時期が遅い傾向にある。
 - 卒業後の進路把握が困難である。
 - キャリアセンターからの就職に関する情報共有が課題である。
 - 一部コースの就職率が課題となっている。
 - 専門職への就職率が低いという声がある。
- 今後の改善方策：
 - 各コースで社会と関わる授業を策定し、実践的な学習機会を増やす。
 - 就活情報の一元化を図り、キャリアセンターと各コースの教員が連携し、情報共有を強化する。
 - 学生個別の面談を通じて、聞き取りを行い、個別のアドバイスを提供する体制を強化する。
 - キャリアセンターと教員の連携を強化し、同窓会組織も活用して就職情報を共有する。
 - 学生の意識変化に対応した、就職への動機付けやキャリア形成支援のアプローチを検討する。
 - 卒業制作に注力し、就職活動が疎かになる傾向に対し、バランスの取れた指導を行う。

5. 育成支援

- 課題と現状：
 - 家庭に問題を抱える学生が増加している。
 - 就職活動経験のない教員が就職のケアをできるかどうか疑問の声がある。
 - 企業のニーズ把握が十分でないという意見がある。
 - 課外活動や生活環境への支援は一部に留まっている。
- 今後の改善方策：
 - カウンセリング体制を強化し、保護者との連携を深める。
 - インターンシップの更なる充実を図る。
 - 企業のニーズ把握については、特定のツールスキルよりもデザインの基本的な考え方や汎用的なスキルを重視し、教育に反映させる。
 - 高等専修学校との連携を継続・強化し、キャリア教育・職業教育の取り組みを進める。
 - 健康管理体制(健康診断、保健室対応)は引き続き適切に行う。

6. 環境

- 課題と現状：
 - 施設設備が教育上の必要性に十分対応できていないという意見がある。
 - 防災に対する体制整備が不十分であり、公募の役割が明確化されていない。
 - 一部コースの機材が不十分であるという声がある。

- 教室の老朽化が進んでいる箇所があり、教室不足との声も上がるが、活用の仕方にも検討の余地がある。
- 今後の改善方策：
 - 災害備蓄品の充実を図り、防災チームの活動を強化する。
 - 教育会議をより効果的に活用し、部署間の情報共有を促進する。
 - 教室の利用状況を把握し、譲り合って効率的に使用するためのルール運用を徹底する。
 - 液晶タブレット等の機材購入については、費用対効果と事業への必要性を考慮し、優先順位をつけて検討する。
 - 海外研修はシステムが整備されているものの、学生の参加意欲向上のための取り組みを継続する(円安など経済状況の影響を考慮)。

7. 学生の受け入れ

- 課題と現状：
 - 時代に合わせてWeb出願を実施する必要がある。
 - 学納金の妥当性について、物価高を加味した賃上げとの関連で議論の余地がある。
 - 募集活動におけるデータ連携と管理の徹底が課題。
- 今後の改善方策：
 - Web出願システムを早急に導入する。
 - 募集活動においては、教育成果を正確に伝え、データに基づいた管理を徹底する。

8. 財務

- 課題と現状：
 - 中長期的な財務基盤の強化と、校舎の老朽化対策およびバリアフリーへの取り組みが課題である。
 - 財務情報の公開は行われているものの、周知に課題がある。
- 今後の改善方策：
 - 校舎の建て替えや大規模改修は数年先の検討とし、既存の施設を最大限に活用し、居心地の良い空間を維持する。
 - 学生数の安定化に向けた取り組みを継続し、財務基盤の安定化を図る。
 - 予算収支計画や会計監査は引き続き適切に行い、財務情報の透明性を維持する。

9. 法令等遵守

- 課題と現状：
 - 自己評価の記入内容が改善の進捗についての課題がある。
- 今後の改善方策：
 - 自己評価の実施と、それに基づく問題点の改善プロセスをより明確化し、教職員に周知する。
 - 自己評価の結果は引き続き公開する。
 - 教職員からの意見や提案に対するフィードバックの機会を設け、意見が反映される仕組みを強化する。
 - 個人情報保護のための対策は引き続き適切に行う。

10. 社会貢献・地域貢献

- 課題と現状：
 - 公開講座や教育訓練の受託について、積極的な実施が求められている。
 - 学生のボランティア活動の奨励・支援は、一部実施に留まっている。
- 今後の改善方策：
 - 学校主導で公開講座を積極的に実施し、担当者や講座発案者を確保する。
 - 地域連携活動(ATCL)をさらに推進し、杉並区などとの連携を強化する。
 - 都立高校の美術科教員研修会や子供美術教室など、学校の教育資源や施設を活用した地域貢献活動を継続・拡充する。
 - 学生が地域社会に貢献するボランティア活動を奨励・支援する機会を増やす。

11. 国際交流

- 課題と現状：
 - 留学生の増加が進んでおり、受け入れにおける指導基準や規定人数の見直しが求められている。
 - 学習成果の国内外での評価を促す取り組みに、さらなる強化の余地がある。
 - 今後の改善方策：
 - 留学生の学習・生活指導体制を引き続き適切に整備する。
 - 学習成果が国内外で評価されるような取り組みを強化する。
 - 増加する留学生数に対応するため、受け入れ可能な適正人数基準を検討する。
 - 国際交流の機会をさらに広げ、学生の多様な価値観とキャリア形成を支援する。
-

検討課題

1. 「横の連携」の抜本的強化と情報共有の促進：

- 教職員間のコミュニケーションを活性化させるための仕組み(グループウェア導入、定期的な短時間ブリーフィングなど)を導入し、コース間、部署間の情報共有を徹底する。
- これにより、学生情報の連携、教室の有効活用、就職支援情報の共有など、多岐にわたる課題解決に繋げる。

2. 変化する学生像と社会ニーズへの対応：

- 学生の就職意識の変化や、家庭環境の複雑化に対応した、より個別的で手厚いキャリア支援・育成支援体制を構築する。
- AIなどの先端技術の進化をカリキュラムに積極的に取り入れつつ、普遍的なデザインの基礎、思考力を重視した教育を強化する。
- 企業の「数字で裏打ちされた結果」を求めるニーズへの対応も意識しつつ、本質的なクリエイティブ教育の価値を堅持する。

3. 外部連携の戦略的活用と「人」の繋がり重視：

- 同窓会や卒業生との連携を強化し、業界の生きた情報や人材を教育活動・就職支援に取り込む。
- 外部からの評価や意見を積極的に教育活動の改善に繋げる仕組みを明確にする。
- 外部人材の登用においては、求人サイト等だけでなく、教職員や卒業生の「人繋がり」を重視し、質の高い人材を確保する。

4. 組織体制と評価システムの明確化：

- 教職員の人事評価において、勤続年数だけでなく実績を適切に評価する基準を明確化し、透明性を高める。
- 自己評価の目的を教職員全体で再認識し、意見提出後のフィードバック体制を整備することで、評価活動の意義を高める。

5. インフラ整備と持続可能な運営：

- Web出願システムを導入し、募集活動の効率化と学生利便性の向上を図る。
 - 校舎の老朽化対策は中長期的な課題とし、短期的な補修・維持管理を継続しつつ、既存施設を最大限に有効活用する。
 - 防災体制を強化し、役割分担を明確にすることで、有事の際の適切な対応を可能にする。
 - 増加する留学生数に対し、学校としての適切な受け入れ基準を検討し、教育の質の維持と両立を図る。
-

